

平成29年度パレアミインドアップセミナー 新オトコの生き方①

県男女共同参画センターでは、平成29年度パレアミインドアップセミナー「新オトコの生き方シリーズ(全3回)」を開催しています。第1弾・男性の家庭参画、第2弾・夫婦・家族の在り方、第3弾・働き方改革をテーマに、男性も女性もともに幸せに生きるため、大切なことを考えていきます。

第1弾

山田亮さんの講演レポート

楽家事でワーク・ライフ・バランス！

我が家は私と妻、高校生の娘の3人暮らしです。妻が大学教授として働き、私が主夫として、家事ジャーナリストとしての仕事をしながら家事を務めています。ワーク・ライフ・バランス(仕事と私生活の調和)は人それぞれです。ワークとライフがきつちりと区切れる人もいれば、区切れない人もいます。統計上、家事はライフに属するとされていますが、実際には家事はワークとライフの境界にあるもので、家事を制する者こそが、ワーク・ライフ・バランスを制するというのが私の考えです。

夫婦それぞれが仕事と家庭を受け持つという形は、安定経済成長期では夫婦のベストの形でした。しかし、現代の低成長の時代では、一人ひとりが仕事と生活を安定させている姿が理想だと思っています。夫婦で揃って老後を迎えた時、夫は妻がいた場合は5年後の死亡リスクが低い一方、妻の方は夫がいた場合の死亡リスクは2倍になるというデータがあります。しかし、夫が自分の身の回りの事をできる夫婦では死亡リスクに差はありません。男性の生活自立は夫婦双方を救うのです。第一歩として、プチ家事をオススメします。プチ家事のポイントは、「キッチンと脱ぐ(例えば、決まった場所にポケットを確認して脱ぐ)」、「すぐ対処する(洗面鏡を汚したら乾く前にすぐ拭く)」の2つです。この2つを気にかけることで、普段の家事の軽減につながります。多くの夫は家事をしなくてはならないという意識を持っています。きっかけがなかったり、方法が分からないとい

うだけなのです。

楽家事のためには、「分担」よりも「共同」が大切です。共働きがあるなら共家事があってもよいはずですが、子どもが1〜2歳の時に、私は育児ノイローゼになりました。2人とも子育てはしていましたが、全て交代制。2人で話す時間が無い状態でした。妻が休みをとって子育てを交代したところ、妻も1人で行う子育ての大変さを共感してくれました。共感し合う事で、楽しさは倍に、大変さは半分になります。この経験から、役割を「分担」するのではなく、「共同」することの大切さに気づきました。

家事はずっと続くものです。少々家事が行き届かなくても楽しい家族の方がよいと思います。無理をしない家事を、家族で「共同」していくことこそ、みんなが楽しい家庭をつくることに繋がっていくのです。



家事ジャーナリスト
山田 亮氏

プロフィール

1967年生まれ。大阪市立大学商学部卒業後、サラリーマンなどを経て結婚。主夫になる。キャリアウーマンの妻を支えつつ、大学や専門学校での研究経験や社会福祉士の観点から、家族や家事のあり方を考える「家事ジャーナリスト」としても活躍。

イクボスとは？

自らも仕事と私生活のバランスを取り、同じ職場の部下やスタッフ一人ひとりの状況を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出すことができる経営者や管理職のことです。

参加者募集

第3弾 11月11日(土)

イクボスの第一人者であり、NPO法人ファザーリングジャパン理事の川島高之氏をお招きし、企業経営者や管理職からみたワークライフバランスの必要性についてご講演いただきます。

第2弾 10月14日(土)

Logista(株)共同代表の長廣百合子さん、長廣遥さんによる「子育て期夫婦のパートナーシップを強くする 両親学級 世帯経営セミナー」を開催。